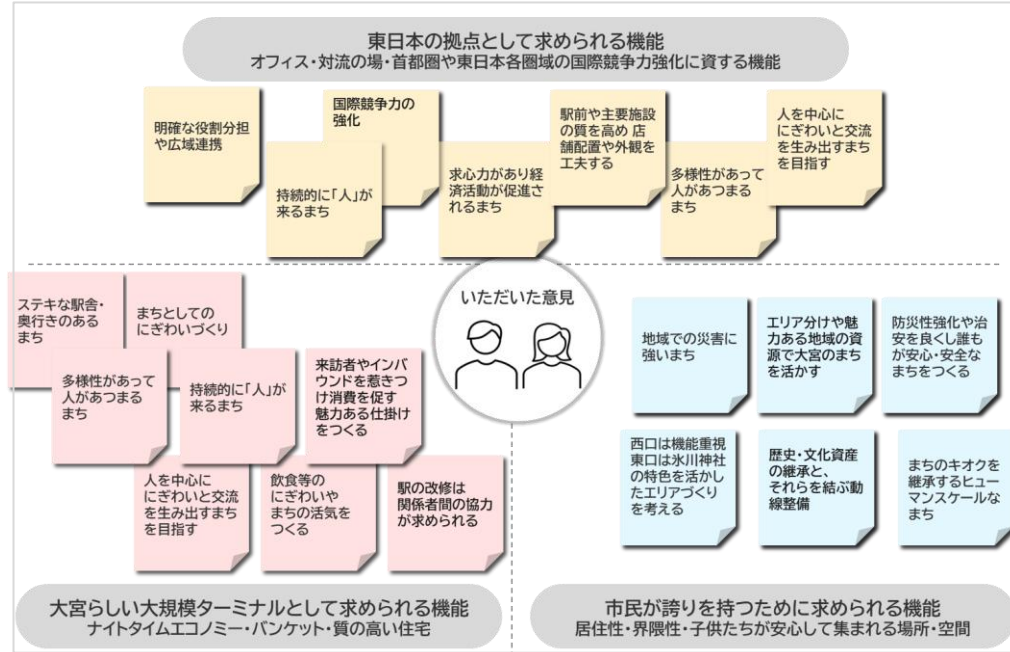


1-3 今年度の取組み:街区間連携ワークショップ ※詳細は、GCSNEWS第26号をご覧ください。

将来にわたり魅力あるまちの実現に向け、まちづくりとして各地区に導入する機能や連携のあり方についてのアイデアを議論するために開催しました。

対象者	駅前開発街区の区域内に土地や建物を所有する権利者
日時	令和7年9月17日/10月1日/10月15日(3日間)
場所	大宮区役所

街区間連携ワークショップでの意見集約



ワークショップでの意見集約を踏まえて

「導入・強化すべき都市機能」の補強のポイントに基づき、意見を整理しました。

意見を踏まえ、「街区間連携によって実現される将来像」として今後具体化し、早期事業化にむけた検討に反映を予定しています。

Grand Central Station NEWS

大宮駅グランドセントラルステーション化構想 ニュース

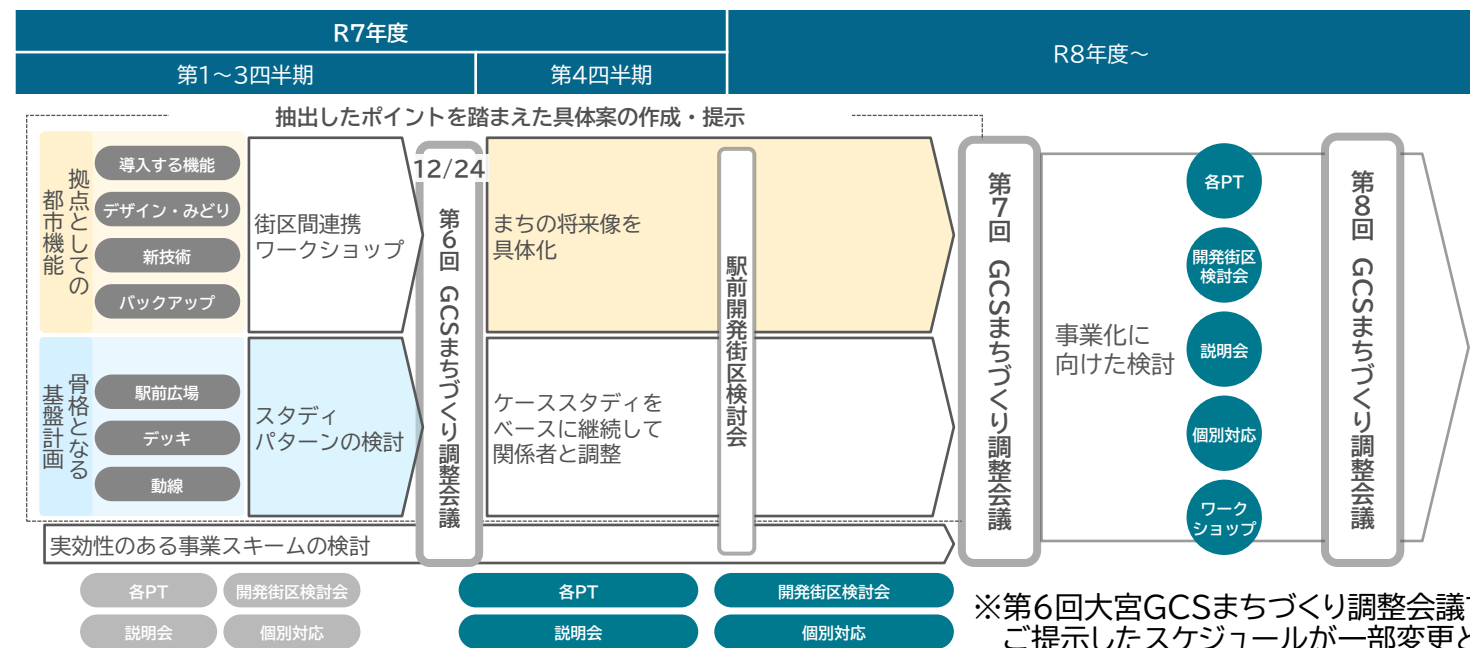
発行 令和8年4月 さいたま市

春暖の候、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。
去る令和7年12月24日(水)に「第6回大宮GCSまちづくり調整会議」を開催しました。本号では、上記会議の開催結果として、市からご説明した内容と、委員の皆様から頂いた主なご意見について、ご紹介いたします。
引き続き、大宮GCS化構想の実現に向けて検討を進めて参りますので、今後とも皆様のご協力をお願いします。

※ 第6回大宮GCSまちづくり調整会議の会議資料や議事録をご覧になりたい場合は、市のホームページに掲載しておりますので、4ページを参照しダウンロードしてご覧ください。

2 スケジュールについて

早期事業化に向けて、GCS関係者と協力・連携しながら、引き続き検討を進めていきます。



※第6回大宮GCSまちづくり調整会議でご提示したスケジュールが一部変更となっていることをご了承ください。

【会議資料の閲覧について】

GCS関連の各会議の資料や主なご意見は、市ホームページに掲載しています。以下の2つの方法からアクセスできますので、ぜひご覧ください。



①キーワードで検索▶

大宮 GCS

②二次元コードを読み取り▶



※その他、大宮GCS化構想に関するご質問・ご意見等、随時受け付けておりますので、下記までご連絡ください。

連絡先：さいたま市 都市局 都心整備部 東日本交流拠点整備課
[TEL]048-646-3281・3282 [FAX]048-646-3292
このチラシは、周知・啓発用に1,200部作成し、1部当たりの印刷経費は44円です。

1 第6回大宮GCSまちづくり調整会議

1-1 会議の開催概要

当日は、第5回大宮GCSまちづくり調整会議で示した点検・補強ポイントのもと、今年度実施した取組みとして、「街区間連携ワークショップを踏まえた「まちの将来像の具体化」に向けた整理」と、「骨格となる基盤計画(たたき台)」についてご説明し、まちの将来像を具体化させていくための視点等を確認しました。

日時	12月24日(水) 13:00~15:00
場所	ソニックシティ地下第2・3展示場
議題	(1) 今年度の取組み ① 街区間連携ワークショップ ② 骨格となる基盤計画(たたき台) (2) 今後の予定・スケジュール



大宮GCSまちづくり調整会議とは

専門的知識を有する者、事業者、各種団体の代表者等から意見を聴取し、大宮GCS化構想の推進に向けた全体調整を図るものです。

構成員 学識経験者、駅前開発街区代表者(再開発準備組合、まちづくり協議会)、交通事業者、関係行政機関(埼玉県、埼玉県警察、さいたま市)

オブザーバー 商店街連絡協議会、自治会連合会、国土交通省(都市局、鉄道局、関東地方整備局)、地元まちづくり団体(大宮南銀座まちづくり勉強会)、UR、民都機構、UDCO等



会議の様子

1-2 今年度の取組み:骨格となる基盤計画(たたき台)

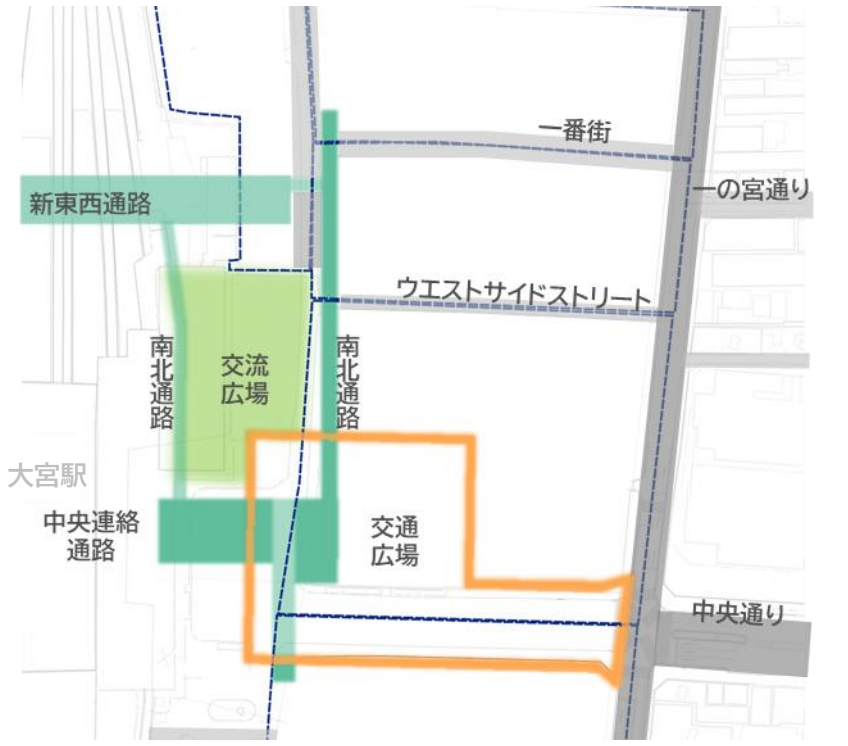
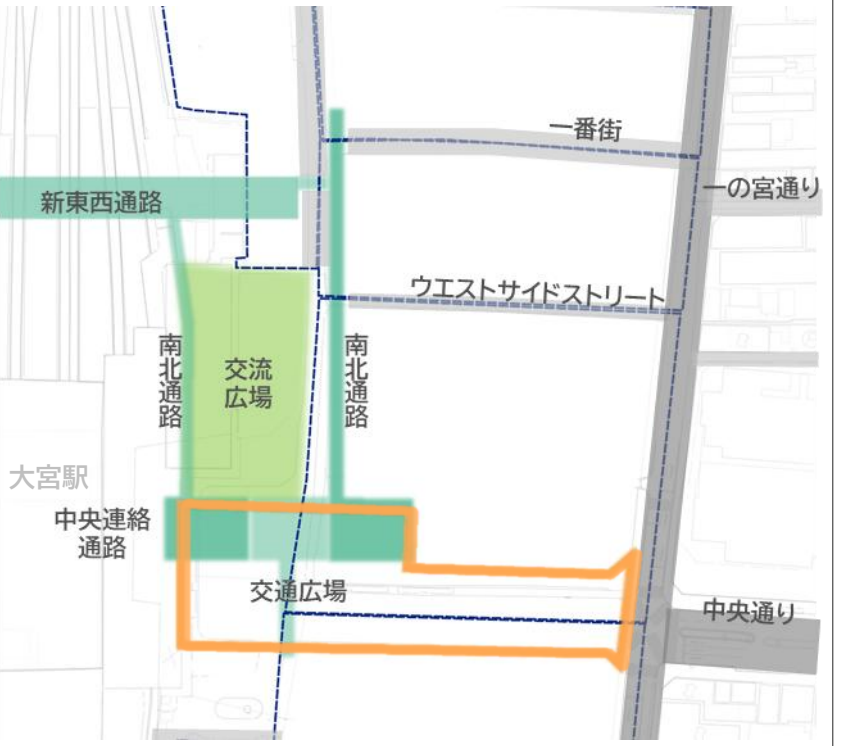
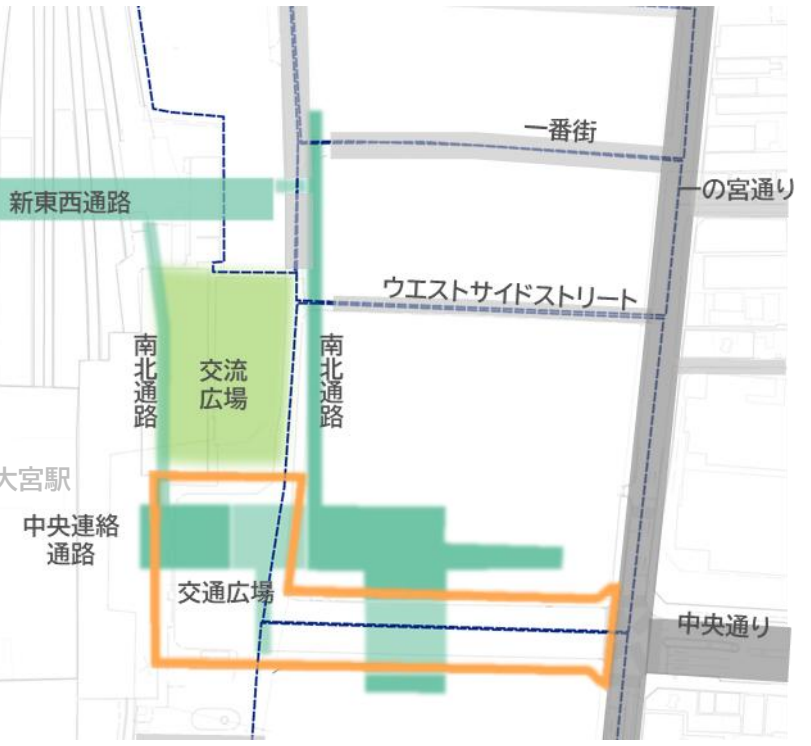
これまでの検討や過去の経緯を踏まえ、大宮GCS化構想の骨格となる基盤計画として、主に交通広場のレイアウト案について、以下に示す3つの案をたたき台として提示しました。今後はこれら以外の案も含めて検討を進めてまいります。

考え方の前提

1. 大宮駅東口駅前広場の計画は、地上の空間確保を大切にすることを基本とする。
2. 橋上駅である大宮駅特性を踏まえ、駅前広場及びデッキの配置を検討する。

今後の検討内容

- 本会議で提案した基盤計画案(たたき台)を基本とし、プロジェクトチーム会議等での意見を踏まえ複数のパターンを検討する。
- 「拠点としての都市機能」と「骨格となる基盤計画」を相互に見据えながら検討を深めつつ、実効性・実現性を向上させる。

	案①	案②	案③
考え方	現行案を踏まえデッキのあり方を明確化	憩いの空間をさらに確保 駅とまちの連携強化	アクセスの更なるシームレス化 駅とまちの連携強化
【交通広場・交流広場】 まちの顔となる公共空間の形成	— (現行案)	交流広場を拡大	交通広場を駅直近に配置
【デッキ/中央連絡通路の延伸】 駅改札レベルからまちへのにぎわいの広げ方	中央連絡通路部の延伸	デッキ(駅改札レベルの動線)を東側へ拡大	中央連絡通路部を延伸、中央通り南側へ接続
【回遊動線のあり方】 まちの回遊性の強化	街区側に南北通路を拡充	中央通りの歩道空間の開放性確保	中山道まで駅改札レベルで確保
図			

凡例

- 1F(地上)レベルの広場
- 2F(駅改札)レベルの歩行者動線
- 交通広場の区域

※ 図は位置、範囲等が決まったものではなく、様々なバリエーションが想定されるため、関係者調整を踏まえ詳細をとりまとめる。

第6回大宮GCSまちづくり調整会議でいただいたご意見

学識経験者

- ▶ GCSの検討も長期に渡っている。ここに集まっている関係者の気持ちが折れないよう、着実な一歩を進めてほしい。そのためにも、開発された先の生活イメージやまちの将来像を早期に示し、段階的にでも共有すること。交流広場を新東西通路整備のための施工ヤードとして全面的に使う計画は、鉄道事業者とともに再検討すること。新東西通路の整備のために、みんなが期待している交流広場が長期間利用出来ないのでは、まちとしての魅力に影響する。今回提示された交通広場の計画案は、従前の計画(案①)と比較し、鉄道駅と公共交通(バス・タクシー)が、近接するという配置は、市民にとってはよい計画。一方、交通処理という「公」の空間のみならず、商業環境や回遊性なども含めた「共」の空間を具体化することで、関係者間での将来像の共有が図れると考える。(会長)
- ▶ 基盤の計画については、いよいよ検討が尽くされたと感じている。現状の課題として、6つのブロックの権利者が将来の自分たちの状況がどういった絵姿になるのかリアルな想像ができずに判断しかねている。今後は、人が回遊していく目的地となる拠点としての都市機能、それぞれの権利者が、土地の所有権がどう残るのか、収益はどのくらいあがるのか、などを具体化し、所有者の視点と、土地の床の用途の視点を加えた議論が必要。そのため、これまで「公」の検討を中心に行ってきたが、再開発準備組合が主体となる「民」の検討を中心に取り組んでいくことが必要。(職務代理)

機関関係

- 大宮駅は県下最大のターミナル駅であり交通ネットワークの重要な役割と認識。そのため、大宮駅の機能の高度化を積極的に進めていただきたい。(埼玉県)

駅前開発街区

- 案2が希望。(中/南/西S)
- 南銀座と銀座通りが分断されないよう動線を確保すること。(南)
- 土地整序による再配置にあたっては、好立地の場所に換地を希望。(西S)
- 検討が後戻りしないよう、これまでの検討を踏襲し着実に前進すること。(中)
- 検討が長期化し厳しい状況。権利者の意欲に配慮し早期に事業を推進するべき。(西N)

交通事業者

- ▶ 今回提示された基盤の計画をベースとした今後の議論に協力していく考え。必要な基盤整備の実現に向けては調整をよろしく願いたい。(JR)
- ▶ 東武大宮駅改良はGCSなしには実現できないため、GCSの全体の進捗を見ながら取り組む考え。(東武)
- ▶ 今後はバスもタクシーも減っていくことを考慮し、これからの10~20年を予測し考えること。(タクシー)
- ▶ 出来る限り使いやすい駅としていただきたい。(バス)
- ▶ バスの自動運転の導入が期待されている一方で、現在の駅前広場や道路の構造では実現困難であることは理解いただきたい。(バス)

ザオプー

- 引き続き大宮駅東口への下りエスカレーター設置要望を行っていく考え。(自治連)

